

令和3年度「公立学校教員勤務実態調査」等の結果【参考値】

令和4年3月
教育委員会

- 1 調査時期 令和3年10月～11月（1週間）
- 2 調査対象 府内公立学校の校長及び教員の約1割（1,100人）を無作為抽出（京都市立学校を除く。）
- 3 調査内容 1週間の出退勤時刻の記録（コロナ禍における教員の負担軽減のため項目を精選）
〔選択〕第1期：10月25日（月）～31日（日） 第2期：11月8日（月）～14日（日）
- 4 関連調査 部活動手当の支給状況（令和3年度分）
- 5 調査結果

コロナ禍の下、感染拡大防止と学びの保障の両立のため、教員の勤務実態は依然として厳しい状況。

ICTを活用した業務効率化、行事の重点化等の取組や教員業務支援員等の配置により、昨年度と比べて時間外勤務は減少。

○ 教諭等の時間外勤務は、週当たり1時間近く減少

全 体 ②57時間45分 →③56時間47分（▲58分）

小学校	②55時間45分	→③55時間6分	（▲39分）
中学校	②62時間48分	→③62時間34分	（▲14分）
高等学校	②59時間4分	→③56時間42分	（▲2時間22分）
特別支援学校	②51時間13分	→③49時間54分	（▲1時間19分）

○ 土日等の部活動指導回数は、令和元年度と概ね同程度

※令和2年度は一斉臨時休業の影響もあり減少

1人当たり指導回数	①月2.3回→③月2.3回（±0回）（参考 ②月1.8回）
中学校	①月2.1回→③月2.3回（+0.2回）（参考 ②月1.9回）
高等学校	①月2.6回→③月2.2回（▲0.4回）（参考 ②月1.7回）

【勤務時間に関する集計結果の概要（令和2年度比較）】

教員の学内勤務時間

時間：分

平日 (1日当たり)	全 体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差
勤務時間	10:47	10:54	▲0:07	10:55	11:03	▲0:08	11:14	11:19	▲0:05	10:25	10:34	▲0:09	9:56	10:07	▲0:11
うち教諭等	10:44	10:53	▲0:09	10:52	11:01	▲0:09	11:14	11:19	▲0:05	10:21	10:34	▲0:13	9:53	10:04	▲0:11

「教諭等」は、管理職を除く教諭（講師含む）を指す。

時間：分

土 日 (1日当たり)	全 体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差
勤務時間	1:32	1:35	▲0:03	0:24	0:19	+0:05	3:02	2:56	+0:06	2:32	3:02	▲0:30	0:17	0:26	▲0:09
うち教諭等	1:34	1:41	▲0:07	0:22	0:20	+0:02	3:11	3:08	+0:03	2:28	3:06	▲0:38	0:15	0:27	▲0:12

時間：分

1週間	全 体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差	R3	R2	差
勤務時間	56:58	57:40	▲0:42	55:23	55:53	▲0:30	62:14	62:23	▲0:09	57:10	58:55	▲1:45	50:16	51:29	▲1:13
うち教諭等	56:47	57:45	▲0:58	55:06	55:45	▲0:39	62:34	62:48	▲0:14	56:42	59:04	▲2:22	49:54	51:13	▲1:19

(参考)平成29年度基準(教職員の働き方改革実行計画に基づく評価指標)

○教員の時間外勤務は、週当たり 3 時間20分程度減少

教員の 1 週間の学内総勤務時間 ②週60時間16分→③週56時間58分 (▲ 3 時間18分)

教員の学内勤務時間

時間:分

平日 (1日当たり)	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差
勤務時間	10:47	11:05	▲0:18	10:55	11:31	▲0:36	11:14	11:36	▲0:22	10:25	10:21	+0:04	9:56	10:23	▲0:27
うち教諭等	10:44	11:01	▲0:17	10:52	11:27	▲0:35	11:14	11:35	▲0:21	10:21	10:19	+0:02	9:53	10:18	▲0:25

「教諭等」は、管理職を除く教諭(講師含む)を指す。

時間:分

土日 (1日当たり)	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差
勤務時間	1:32	3:01	▲1:29	0:24	2:27	▲2:03	3:02	4:01	▲0:59	2:32	3:37	▲1:05	0:17	1:36	▲1:19
うち教諭等	1:34	2:58	▲1:24	0:22	2:22	▲2:00	3:11	4:02	▲0:51	2:28	3:36	▲1:08	0:15	1:27	▲1:12

時間:分

1週間	全体			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差	R3	H29	差
勤務時間	56:58	60:16	▲3:18	55:23	61:18	▲5:55	62:14	65:03	▲2:49	57:10	57:47	▲0:37	50:16	53:59	▲3:43
うち教諭等	56:47	59:50	▲3:03	55:06	60:47	▲5:41	62:34	64:57	▲2:23	56:42	57:36	▲0:54	49:54	53:17	▲3:23

H29結果のうち「1週間」の勤務時間は、本調査の回答時間を総時間から一律に差し引いており、当該時間が包まれた各平日・土日の合計とは一致しない。(平均回答時間 小学校75分、中学校65分、高等学校73分、特別支援学校69分)

【概要】コロナ禍における府立学校の業務改善等の取組（令和2～3年度）

（令和4年1月時点集計）

取組内容の主な項目

- 1 行事等の廃止・見直し（148例）
- 2 ICTの有効活用
 - （1）会議や情報共有の合理化（66例）
 - （2）調査・集計等の合理化（29例）
 - （3）学習指導改善・保護者連絡等の合理化（29例）
- 3 部活動の運営改善など（10例）

取 組 内 容

1 行事等の廃止・見直し

- ① 体育祭や文化祭・宿泊行事等、学校行事の中止や短縮、代替行事への変更
→全体の約72%の学校で実施（42校）
- ② 式典の簡素化やオンライン配信等による時間の短縮
→全体の約31%の学校で実施（18校）
- ③ 保護者関係の行事の見直し
 - ・学校説明会のオンライン実施や分散開催
 - ・家庭訪問の中止、又はオンライン実施等への変更
 - ・PTA等の会議のオンライン実施や、広報誌のデータ配付等を実施→全体の約34%の学校で実施（20校）

① 体育祭や文化祭・宿泊行事等の中止や短縮、代替行事への変更

課題：学習合宿と同時期に三者面談や夏の進学補習が重なることで、多くの時間外勤務が発生していた。

➡ 取組効果 学習合宿に代え校内で進学補習を実施。学習合宿に関わる業務がなくなり、教職員の大幅な負担軽減となった。

課題：学習発表会における準備の負担が大きい。

➡ 取組効果 学習発表会を音楽会に変更。他校等からの招待は行わず、保護者のみの参観とした。
そのため、

- ・授業時間の回復と確保
- ・大道具の準備等が不要となったことで、教職員の負担を軽減
- ・保護者のみの参観とすることで、併せて保護者セミナー等を実施

などの効果があった。

② 式典の簡素化やオンライン配信等による時間の短縮

課題：新型コロナウイルス感染症対策のため、入学式における三密回避が必要。

- ➡ **取組効果** 入学者の呼名と校長による式辞等に限定し、時間毎に人数を分けて実施することで、感染症対策を踏まえての実施ができた。

課題：新型コロナウイルス感染拡大のため、始業式等で体育館等に集まることができない。

- ➡ **取組効果** オンライン会議システムを活用し、始業式等の全校集会を各教室に配信。放送を使う音声のみの実施より話し手が見えるようになり、伝わりやすくなった。

③ 保護者関係の行事の見直し

課題：進学説明会について、教職員の勤務時間外（平日夜）の開催となっていた。

- ➡ **取組効果** 説明会を動画配信にすることで、勤務時間外の開催をせず、都合の良い時に視聴が可能となり、参加人数も大幅に増加した。

課題：PTA関係会議の準備について、時間・費用面での改善を図りたい。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用し、会議資料を各家庭に送付することで、会場確保や紙資料作成、袋詰め、郵送等の負担解消につながった。

2 ICTの有効活用

(1) 会議や情報共有の合理化

① ICT等の活用による、教職員間の打ち合わせや朝礼の廃止・縮減

→全体の約41%の学校で実施（24校）

② ICT等の活用による、会議資料のペーパレス化・時間縮減

→全体の約45%の学校で実施（26校）

① 教職員間の打ち合わせや朝礼の廃止・縮減

課題：朝礼時における連絡だけでは、時差出勤等のためその場にいない教職員との情報共有が難しい。

- ➡ **取組効果** 教職員間でグループウェアを活用することで朝礼を廃止。時差出勤等の教職員含め情報共有が可能となり、育児関係の時短勤務等の多様な働き方への支援にもつながった。

② 会議資料のペーパレス化・時間縮減

課題：多くの教職員が在籍するため、会議における資料作成の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** 職員会議は職員室で実施し、自席のパソコンから会議資料を見ることで、用紙の節約や準備作業を大幅に削減。また、オンライン掲示板の活用が促進され、会議が削減された。

(2) 調査・集計等の合理化

→全体の約36%の学校で実施(21校)

課題：アンケートや授業評価等の実施における、印刷・集計・未提出者への連絡等の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用し、アンケートや授業評価等を集約。それまでの印刷・集計・未提出者の連絡等の負担軽減につながった。

課題：考査等の採点業務について、短期間で作業となるため、多くの時間外勤務が発生していた。

- ➡ **取組効果** 自動採点ソフトの試験導入により、短時間で正確な採点・集計が可能となった。また、問題毎の得点率を設定することで、観点別評価にも活かせるようになった。

(3) 学習指導改善・保護者連絡等の合理化

→全体の約36%の学校で実施(21校)

課題：コロナ禍において、効果的な家庭学習の課題作成や補習等の準備が必要。

- ➡ **取組効果** グループウェアを活用して、週末等に課題を効果的に配信。また、短時間で集約できることから、授業アンケートを頻繁に実施でき、より効果的な授業につながった。

課題：コロナ禍において、生徒の欠席についての電話の増加や、欠席情報の集約の負担が大きい。

- ➡ **取組効果** 学校ホームページ上の専用フォームに欠席情報を入力してもらうことで、電話対応や欠席理由別の個別集計が不要となり、随時、全教職員で集約情報を共有できるようになった。

課題：コロナ禍における緊急連絡時、その都度、各担任から生徒・保護者へ電話連絡を行っていた。

- ➡ **取組効果** 一斉緊急連絡システムの導入により、電話のかけ直しもなくなり、時間短縮・負担軽減につながった。

3 部活動の運営、その他業務改善

- ◆ 部活動の運営工夫等
- ◆ 部活動指導指針に定める活動時間厳守の徹底
- ◆ 成績表・通知表等における押印・記入内容の省力化・・・など

→全体の約14%の学校で実施(8校)

課題：部員の減少に伴い、チームスポーツの成立が困難。併せて顧問の多忙化に拍車がかかっている。

- ➡ **取組効果** 既存の部活動も含め、複数のスポーツが経験できるフリースポーツクラブを創部することで、複数の部活動では人数が増加。また、主顧問・副顧問の役割の明確化により負担の分散につながった。

